

(第3種郵便物認可)

今として 未来

環境アドバイザーからの提言

スーパーの店先には、新鮮そうな野菜が並んでいる。産地名の表示義務化により、「アメリカ産アロココリ」「メキシコ産ピーマン」などと書かれた産地を見るにつけ違和感を感じるのは、私だけだろうか。一体、何日かかって地球の反対側から生鮮野菜が運ばれてくるのか。

穀物換算食糧自給率によれば、主要国の中でも群を抜く低さの国がある。わが国、日本である。穀物換算とは家畜の飼料をも入れた総自給量のパーセントであるが、自国で消費する食糧の七割以上を輸入に頼っているという事実にはかならない。

何が大切か考える時期

世界の飢餓人口は八億ともいわれている。一日に三万―五万人も人が餓死している。他国から食糧を輸入するということは、その国から土の栄養や水を輸入しているということでもあり、私たちは世界中から食糧や水を奪っているのだ。巨大な多国籍企業が、アジア、アフリカ、南米など途上国といわれる国々で、森や環境を破壊しながら大規模農園を経営している。

| | |
|---------|------|
| オーストラリア | 341% |
| フランス | 201% |
| カナダ | 155% |
| アメリカ | 140% |
| ドイツ | 125% |
| スウェーデン | 118% |
| イギリス | 107% |
| 中国 | 97% |
| スペイン | 85% |
| 日本 | 28% |

2001年農林水産省・食糧需給表



【なかむら・すみひろ】吉井町本郷。県

食糧とりまく日本の現状

環境アドバイザー連絡協議会藤岡ブロック幹事、環境カウンセラー全国連合会環境教育インストラクター、吉井町教育委員会勤務。

が、アジア、アフリカ、南米など途上国といわれる国々で、森や環境を破壊しながら大規模農園を経営している。日本国内の農家は価格競争に勝てず、自給率の低下に拍車がかかってしまう。そして、店先には地球の反対側から集めた食品が並び、飽食でダイエットしているのが今の日本の現状ではないだろうか。命を支えるのは食糧であるにもかかわらず、自分たちの食べ物をスボイルして、お金の経済に傾倒した暮らしに未来があるとは思えない。

私たちの好き勝手な暮らしの結果起こりつつある「地球温暖化」など、環境問題の行き着くところも食糧の問題である。

新聞記事を見て驚いたが、今世紀末には真夏日は年間百二十日になる予測が出ているそうだ。今年も天候が不順で作物に大きな被害が出ているが、私たちは食べ物が必要ならば生きることも、子孫を残すこともできない。戦後の高度成長以来、食糧の国内自給率は下がっている一方である。私たちは未来について、何が大切なのかを改めて考える時期ではなからうか。

(中村 文彦)